



編集兼発行者

千葉大学医学部

るのほな同窓会報編集部

〒280 千葉市支鼻1-8-1

千葉大学医学部内

るのほな同窓会

電話千葉(0472) 22-7171内線2038

千葉大学医学部同窓会報 第93号 題字 鈴木 五郎

昭和63年度概算要求

高次機能制御研究センター新設
神経内科学講座の設置

医学部長 木村 康 (昭24卒)

昭和63年度政府予算案は、昨年12月26日に閣議決定されたが、医学部から提出した概算要求の重点事項は、すべて要求どおり認められた。極めて厳しい財政事情のもとで、人員増を含めての医学部の意向が最大限に反映されている。

一、医学部附属高次機能制御研究センターの新設

これは環境疫学研究施設および脳機能研究施設を発展的に改組するものであり、中枢神経系・内分泌系並びに免疫系に関する総合的な研究をバイオサイエンスの立場からアプローチするとともに、有機的な研究体制を組もうとするものである。同センターの将来構想については、さらに検討を進める予定であるが、設立当初の研究分野は①遺伝子情報分野②免疫機能分野③高次神経分野④発達生理分野⑤生態情報分野⑥遺伝子治療基礎分野(客員)である。

二、神経内科学講座の新設
脳研、神経内科研究部門が改組

片山 喬教授

富山医科薬科大学医学部長に就任

富山医科薬科大学泌尿器科学講座の片山 喬教授は、同大医学部長に選出され、昨年11月1日付で就任された。先生は昭和30年本学卒業後、皮膚泌尿器科学講座に入学された。昭和35年泌尿器科学

教授退官行事

日程決まる

千葉大学医学部

☆大谷克己教授(昭21金澤医大卒、解剖学第三講座) 最終講義『私の小さな道』2月5日(金) 13時30分より、医学部大講義室
☆木間三郎教授(昭21卒、生理学第一講座) 最終講義『随意運動の

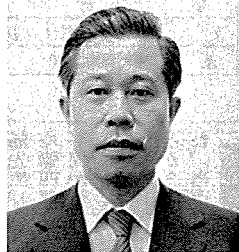
(昭30卒)

私からの母校

厚生省保健医療局長

北川 定 謙 (昭31卒)

先日、四金会保健医療局長就任祝をして下さるとのお誘いいただいたので、久しぶりに亥鼻台を訪れました。会のおと医学部本館から連絡通路を歩いて、野球場を左に見ながら病院横の細い道まで下ってみました。病院の新営で周囲はすっかり変わって



さて、我が国の医療事情は、我々が大学を出た頃と較べると隔世の感があります。疾病構造も結核や伝染病の時代から成人病へと大きな流れが動いております。診断や治療の技術も大変な進歩があります。しかし、一方で各種の難病で家族ぐるみで呻吟している患

問題、システム作りの問題等、医療の周辺問題を含めてなすべきことがあまりにも多いのです。厚生省には、現在、全国52の医科大学から二百三十人以上の医師が在籍しております。このほか、薬学、獣医師、看護学、衛生工学などの技術専門家が仕事を展開しております。

これは、医療供給体制も社会的規制が、好むと好まざるにかかわらず、働いて来ることになり、それぞの地域と地元大学の関係は密接になることは勿論ですが、全国的な流れを作ることにしても多様な活動があります。また、研究行政についても、最近、厚生省においても、最近、厚生科学会議の発足など極めて活潑な動きを見せております。がん、循環器疾患、精神・神経疾患、各種の難病更にはライフサイエンスなどの分野における研究体制が整備されつつあります。今後更に腎疾患、肝疾患、人工臓器の開発研究などについても、そこに病に苦しむ人々があるかぎり、問題解決型の研究が進められなければならない。従来の日本の研究は実験室的、速成的なパターンが強かったのですが、真に問題を解決するためにはプロセスタイプな長大なプロジェクト研究がどうしても必要と言われております。

医療システムの問題にしても、医療と福祉サービスの連けいの問題にしても、まだまだ問題は山積しております。国の医療問題は研究の開発のために各大学からのエネルギーが求められております。これからの大学はもっと流動性を広げ、大胆に力を尽くすことが必要だと思っております。若いうちに大学を飛び出して、流動する社会の中で全力を振るう若い研究者がもっと亥鼻台から輩出することを心から願うものです。

*
*
*

会 計 報 告

昭和61年度 決 算 報 告

昭和62年度 予 算 案

A. 収 入 の 部

科 目	予 算 額	年度末収入計	差 引 高 (△減)
財 産 収 入	500,000円	896,215円	396,215円
会 費 収 入	6,000,000	6,798,000	798,000
事 業 収 入	0	237,500	237,500
寄 附 金	100	20,000	19,900
繰 入 金	0	0	0
繰 越 金	3,891,295	3,891,295	0
収 入 計	10,391,395	11,843,010	1,451,615

B. 支 出 の 部

科 目	予 算 額	年度末支出計	差 引 高 (△減)
1. 事 業 費			
会 報 発 行 費	700,000円	408,650円	△291,350円
名 簿 発 行 費	600,000	765,000	165,000
新 会 員 歓 迎 費	300,000	300,000	0
顕 彰 奨 学 費	200,000	200,000	0
慶 弔 費	80,000	40,750	△39,250
支 部 連 絡 費	300,000	132,000	△168,000
小 計	2,180,000	1,846,400	△333,600

2. 事 務 費

備 品 費	30,000	0	△30,000
消 耗 品 費	200,000	152,734	△47,266
通 信 印 刷 費	2,000,000	1,564,350	△435,650
振 替 手 数 料	120,000	106,740	△13,260
会 議 費	100,000	19,114	△80,886
諸 手 当 費	1,250,000	1,186,147	△63,853
謝 金 費	200,000	131,340	△68,660
退 職 金 引 当 金	73,000	73,000	0
小 計	3,973,000	3,233,425	△739,575

3. 予 備 費

基 金 繰 入 金	3,000,000	3,000,000	0
予 備 費	1,238,395	261,048	△977,347
小 計	4,238,395	3,261,048	△977,347
支 出 計	10,391,395	8,340,873	△2,050,522
繰 越 額		3,502,137	

基 金 24,000,000+3,000,000=27,000,000 退職金積立金 144,000

A. 収 入 の 部

科 目	予 算 額	前年度比(△減)
財 産 収 入	600,000円	100,000円
会 費 収 入	6,200,000	200,000
事 業 収 入	0	0
寄 附 金	100	0
繰 入 金	0	0
繰 越 金	3,502,137	△389,158
収 入 計	10,302,237	△89,158

B. 支 出 の 部

科 目	予 算 額	前年度比(△減)
1. 事 業 費		
会 報 発 行 費	700,000円	0円
名 簿 発 行 費	0	△600,000
新 会 員 歓 迎 費	300,000	0
顕 彰 奨 学 費	200,000	0
慶 弔 費	80,000	0
支 部 連 絡 費	300,000	0
小 計	1,580,000	△600,000

2. 事 務 費

備 品 費	300,000	270,000
消 耗 品 費	200,000	0
通 信 印 刷 費	2,000,000	0
振 替 手 数 料	120,000	0
会 議 費	100,000	0
諸 手 当 費	1,250,000	0
謝 金 費	200,000	0
退 職 金 引 当 金	60,000	△13,000
小 計	4,230,000	257,000

3. 予 備 費

基 金 繰 入 額	3,000,000	0
予 備 費	1,492,237	253,842
小 計	4,492,237	253,842
支 出 計	10,302,237	△89,158
基 金 27,000,000	退職金積立金 144,000	

埼玉支部会総会

昭和62年度るのはな同窓会埼玉支部総会は、去る7月12日熊谷市において、耳鼻咽喉科教授金子敏郎先生、神経薬理研究部門教授萩原彌四郎先生のお二人をお招きして開かれた。

今まで浦和市と大宮市の県南二市で交代で開かれていたが、三年前から更に県北の熊谷市が加えられ、当市としては2回目の担当と



なった。埼玉県北にはるのはな会会員が比較的多く、当熊谷市でも医師会員の20%を占めることから担当に加えられることになったもので、厚生連熊谷総合病院の会員を核として熊谷市を中心とした会員が多勢参加して準備が進められた。熊谷市の場合、比較的若い世代が設営するため、他の地区での総会よりも大盤振舞いの傾向があり経費がかかるが、我が新藤会

各地るのはな会だより

長を始めとする諸先輩方は何も仰言らない。

当日出席は54名で、まず佐藤直義熊谷総合病院院長(昭31卒)の司会で62年度総会が開幕、井上幸万先生(昭27卒)から前年度の事業報告並びに会計報告がなされ、続いて新藤清司会長(昭16卒)から会則の一部改正の提案があり、全員一致でこれを承認、次回は浦和市で行なうことを確認して滞りなく総会を終了、続いて栃木亮太郎君(昭40卒)の司会により金子先生の先進的な話題と萩原先生の懐かしい学内の最近の様子のお話に満ち足りた時を過ごした。なお金子先生のご講演の際、スライド映写機の電球が断線するというハプニングがあり、先生には大層失礼申し上げたことをお詫び申し上げます。懇親会は冠木徹彦(昭40卒)の進行で進められ、好評裡に今年度総会と懇親会の幕を閉じた。

(冠木徹彦記)

中京るのはな会

中京のはな会は、東海三県(愛知、岐阜、三重)の千葉大学医学部出身者の集まりで、48人からなっています。現役の医学部教授は名古屋市立大学整形外科松井宣夫(昭38卒)、岐阜大学放射線科土井偉登(昭33卒)、同大眼科北澤克明(昭36卒)の三氏である。

(三面につづく)

(二面よりつづく)

日、名古屋コーチンで有名な鳥料理の「鳥久」で同窓会を開催した。土曜の夕方とて、お忙しい先生方が多く、昨年度は出席された三教授とも学会、出張等で御出席頂けなかったのは誠に残念であった。出席者は、伊藤源一(5)、近藤素生(6)、内田孝(11)、奥村郁郎(11)、住田満也(12)、林武夫(12)、吉村善郎(15)、小林清(17)、日隈悟一郎(27)、永田龍司(35)、市川清子(41)、岩間汪美(43)、伊藤文二(45)、三浦利重(46)、山口英明(50)の15名であった。自己紹介のあと、長年空席となっていた会長に伊藤源一先生にお願いした。なごやかに鳥鍋をつつきながら、亥鼻の思い出、知人の消息、最近の医療情勢など重い話、軽い話、懐かしい話つもの話に夜の更けるのも忘れ、またの再会を約して散会した。

なお、藤川 昊(5)、高田輝雄(25)、飯高 和(専25)の三先生の転居先が不明ですので、御存知の方は御一報ください。

(一)は卒業年度。

(吉村善郎、岩間汪美記)

栃木の はな会

の はな 同窓会栃木支部の総会、講演会および忘年会が11月19日(木)、午後6時30分より宇都宮ロイヤルホテルにて、母校から磯野可一教授、徳永助教教授をお招きして行われた。当支部では毎年

一回、母校から一、二名の先生をお招きしているが、今回は特に盛況で32名の会員が集まった。まず講演会では磯野教授が「食道外科領域における最近のトピックス」と題して、食道癌のみならず広く消化器癌全般にわたって、先生のライフワークである臨床病理から、診断、治療、さらに教室における最近の研究成果まで、明快に講演された。ともすれば難解になりがちのこのテーマを多くの事例を示して、分かり易くお話しいただき、今後の我々の診療や研究にも大いに役立させていたのだと思われた。

次いで、徳永助教教授には、先生がの はな 同窓会の編集委員をされている関係から「千葉大学医学部及びの はな 同窓会の近況について」お話しいただいた。母校の発展と同窓会が団結して、ますます盛況になる様子を極めて具体的に説明され、会員一同なつかしさと共に、母校の隆盛にたのしみと今後への大きな期待をいだかせた。



クラス会だより

昭29卒会

去る八月一日(土)、JR千葉駅内ペリエ宴会場において、大藤正雄君の千葉大学医学部第一内科教授就任のお祝いを兼ねて、昭和29年卒級会が開催された。

出席者は、島崎 淳常任幹事長(千葉大学泌尿器科教授)ほか総勢四十二名。紅一点の窪田(旧姓菅原) 叔子君もはるる富山から出席された(写真)。

恒例により、庶務・会計報告、千葉大学医学部および病院の現況などの説明が、常任幹事長より行われ、引続いて有水 昇幹事(千葉大学放射線科教授)、岩崎洋治君(筑波大学外科教授)、山田兼雄君(聖マリアンナ医大小児科教授、AIDS問題厚生省諮問委員)やその他の級友から大藤教授就任の祝辞が述べられた。

最後に大藤新教授より、教授就

講演会の後、渡辺宗次会長、片山一郎県医師会会長のあいさつ、堀江昌平独協医大教授の乾杯の音頭で懇親会にうつり、会員一同思い思いに旧交をあたためつつ、夜がふけた。

出席会員、渡辺宗次(10)、堀江昌平(23)、高村良平(23)、沢田仔夫(専23)、師尾武(24)、片山一郎(25)、糸井久雄(26)、鹿島洋(30)、布川武男(32)、和田康敏(32)、坂田早苗(34)、

塩田彰郎(35)、大井利夫(35)、嶋田晃一郎(37)、大木勲(38)、大久保隆也(38)、渋谷光柱(39)、滝沢弘隆(40)、門脇淳(41)、福田武雄(42)、本多陸人(42)、星野聡(43)、小林厚夫(43)、杉田敏夫(50)、紅谷明(51)、大宮安紀彦(53)、村島(55)、高在完(56)、石島秀紀(60)、宮崎信一(61)。

(一)内は卒年。

(嶋田晃一郎記)



任にあたっての抱負が述べられた。「社会情勢の急激かつ顕著な変動に伴い、医療も著しい影響を受けており、大学病院の在り方も、医療の原点に帰って考え直さねばならない。等々。」と記憶している。宴会は久方ぶりの会合を祝しながら、和やかに進み、次回の幹事長に中島哲二君(虎ノ門病院放射線科部長)を全員一致で推薦して終了した。

(手術部 樋口道雄記)

春秋会

(昭31卒、開業医グループ)

三年前から秋の例会は旅鳥となつたが、昭和62年11月14、15の両日は初の夫婦同伴を企画し、氷川丸が眼前の横浜のホテルニューグランドに泊した。中華街の万珍楼の奥座敷で宴会後、戦後進駐軍が設立したクリフサイドで二次会、アメリカンスタイルでのバンド演奏でダンスを見る。夫人が若い級友が二人いて、そのカップルがダンスに参加。我々昭和一行はダンスは人様を見るだけ。救い難い。

二次会後、夫人を置いてきぼりにして三次会へ出掛けた男あり、武士の情で名を秘す。

翌朝ハイヤー五台を連ねて、昭和六一年秋に完成したばかりの横浜市大医学部を見学。ガイドは同大第一病理学部長成好教授。同氏は我が同級生で今回の春秋会を企画した。御多忙のなかを二日間御案内いただいた。

一学年六十名の四学年で二百四十名のために、土地三万坪に建物一万一千坪建築費百五十六億円の信じられない立派で広大な施設がある。恐らく日本一と聞いて安心もする。「百聞は一見に如かず」の はな の諸氏も見学されると良い。腰を抜かすであろう。講義室に全員着席し蟹沢教授が教壇に立つて、余りにも貧しかった学生時代にタイムスリップする。

それから三溪園を散策して秋を満喫、外人墓地、港の見える丘公園を経て、ホテルニューグランドで港を見ながら、ゆっくり会食を楽しんで散会した。

我々のクラスは三十二年前に公衆衛生の卒前見学会で横浜に来ていた。三十二年間の人生航路が脳裏を流れたことであろう。港はモノを考えさせる所だ。



愛妻組は小野清四郎常任幹事、大島一浩、志村公男、宮川栄次、関光倫、上野恭一。亭主関白組は滝沢明祐、古川裕生、猪狩好令、井幡宏、小沢強、の諸君である。愚妻の感想「春秋会というのは会計から写真から雑用まで、小野先生に任せず平気でいる。ヒドイ」

(上野恭一記)

御注意!!

「千葉大学生新聞」「の はな 新聞」等は同窓会とは無関係です。従来さまざまな混乱が起きているようですので、重ねて御注意申し上げます。

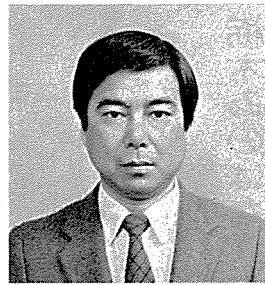
(編集部)

教授就任あいさつ

広く交流を

筑波大学基礎医学系生理学

工藤典雄 (昭41卒)



昨年九月に筑波大学基礎医学系の生理学部門の教授に就任いたしました。

昭和四十二年春、インターン終了後に当時の鈴木五郎教授の御紹介で東京大学脳研究施設の時実利彦教授の門をたき、それ以来神経生理学の道を歩んでいます。卒業後は母校を離れたままですが、本間教授を初めとして、ゐのはなの生理学教室の先輩の諸先生からお会いする度に御指導や激励の言葉をいただき感謝にたえません。

私は現在、神経系の機能分化についての研究を行なっていますが、この領域は従来の生理学的手法のみでは解析が難しく、他の領域の知識、手法が必要とされています。

幸い、筑波大学は講座制がなく、他の専門領域の方々と交流が活発で、容易に共同研究を行える環境にあります。この利点を生かし、幅広い視野で研究を進めて行きたいと思っております。

もとり何の分野でも研究交流、特に国際的な交流の重要性はますます指摘するまでもありませんが、残念ながら我が国では若い研究者が自由に、頻りに海外と往き来するまでには至っていません。それどころか国内の大学間の交流も十分なのが現状ではないでしょうか。特に若い研究者がもっと活発に、自分の今いる領域を越えてお互いに交流出来る様にする必要があると考えています。

現在、神経科学の分野ではゐのはな同窓会の会員が国の内外で広く活躍をしておられます。これらの先生方を核に、まずは私自身の交流の場を広げて行きたいと思っております。どうぞよろしく御指導の程をお願いいたします。

最後に一言、同期の皆様、御無沙汰しています。つくば市に來れる機会がありましたら是非とも御連絡下さい。

天神美夫先生

(昭23卒、杏雲堂病院副院長)

慈恵医大

客員教授に就任

佐々木研究所附属杏雲堂病院副院長、天神美夫博士は、この度慈恵会医科大学産婦人科の客員教授に就任された。先生は癌研附属病院ならびに本学産婦人科学教室

で卒後研修を積み、増淵一正博士に師事され、昭和30年「子宮頸癌患者の尿路病変について」の論文で本学より学位を取得。その後、癌研産婦人科で婦人科領域の細胞診・コロポスコピー・子宮癌検診・細胞診自動化等の大きな業績をあげ、昭和43年杏雲堂病院産婦人科部長、53年同院副院長に昇任、現在に至っております。

同博士は日本臨床細胞学会会長

各種記念式典開催される

昨年から新春にかけて、開講ないし教授就任何周年の記念式典・祝賀会が相繼いで催された。昭和62年9月13日(日)肺癌研究施設臨床第一研究部門開講25周年、山口豊教授就任10周年記念会ならびに祝賀会が千葉ニューカモトホテルで開催されたのを初めとして、同年11月23日(月)には耳鼻咽喉科学教室創設80周年記念式典が千葉ニューカモトホテルで、同年12月5日(土)には、小児外科学教室創立10周年記念講演会が千葉ニューカモトホテルで、また昭和63年1月9日(土)には解剖学第二講座永野俊雄教授就任20周年記念祝賀パーティーが市内はてい屋でそれぞれ盛大に開催された。今回は編集の都合で小児外科学教室にお願

小児外科学教室創立十周年

記念講演会開かれる

昭和52年3月1日に高橋英世科長(就任時は助教)のもとに両外科より23名の医師が集い、ベッ ト数19床でスタートした千葉大学医学部附属病院小児外科も節目の10年を迎えることになった。この間、病床は新病院移転に伴い母子棟に29床と増床され、高橋科長も昭和59年12月16日に教授に昇格、医局員一同日夜診療、研究、教育にと忙しい毎日を送っている。この様な状況下で、日頃御指導、御

の他、厚生省がん戦略研究事業、文部省総合研究等の分担研究員も務められ、さらに老健法のもと子宮癌検診の指導的立場にもある。去る12月3日、東京プリンスホテルで「子宮癌部びらの成立機構」と題する記念講演、引き続き祝賀会が盛大に行われた。今後の先生の御活躍、御発展が期待される。

(千葉大学教授 奥井勝二(昭28卒)記)



援助いただいている関係各位に感謝の念を表すべく、昭和62年12月5日教室開設10周年を記念する式典を催した。記念会には学内はもとより、遠くは北海道、九州からと全国多数の方々の御参集をいた

祝 昭和62年 叙勲・表彰

勲四等瑞宝章	大地 薫先生 (昭11卒)
厚生大臣表彰	谷茂岡 洋先生 (昭15卒)
厚生大臣表彰	郡山春 男先生 (昭21卒)
厚生大臣表彰	川野元 茂先生 (昭29卒)
文部大臣表彰	坂本健次郎先生 (昭9卒)
千葉県社会福祉功労賞	大谷 彰先生 (昭24卒)
千葉県社会福祉功労賞	大津正典先生 (昭29卒)
千葉県衛生功労賞	小林武雄先生 (昭12卒)

中澤 弘先生(昭31卒)
ボルチモア市
医師会長に当選

在米三十年、外科開業歴二十五年になられる中澤 弘先生には、この度ボルチモア市医師会の会長に指名され当選された。千七百名の会員のトップに立たれた先生の今後の御活躍を期待したい。

お願い

叙勲、褒賞などの祝事に関係された方は、ぜひ同窓会事務室まで御一報ください。編集部でも絶えず注意してはおりませんが、ニュースに接し得ない事もあります。お喜びはなるべく早く、同窓の皆様にもお分けしたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

(大沼直躬(昭42卒)記)

故斎藤十六先生を 偲ぶ会行われる

昨年11月7日、東京都大手町経団連会館で、故斎藤十六先生の御冥福をお祈りし御遺徳を偲ぶ為の追悼の会が、千葉第二内科同門会主催で開かれた。会には先生の御生前の親交の深さを語るごとく、御遺族の方々を始め、本学、東京大学、日本大学、北里大学、諸学会、製薬会社関係の多数の方々の御出席があった。杉山三郎（昭7卒）第二内科同門会会長の挨拶、実行委員長稲垣義明教授（昭26卒）の式辞について、香月秀雄放送大

東京都立府中病院

院長 矢 沢 知 海（昭26卒）

私が府中病院の院長として赴任したのは、昭和59年7月でした。前日来の雨も午後からあがり、都知事からの辞令を手に、西国分寺駅に降りると、青葉の香りがして、ゴルフ場にもいる感じになった。とても空気がおいしかった。駅頭にある道順の案内図を見て、先人の説明をもとに歩くことおよそ15分、やっと病院に到着した。三階建てと二階建てが白く抜けていて、その奥に黒い九階建ての病棟が聳え建っていた。病棟は五百五十、全科あり、特に結核病棟が二百床ある。救急は二次で全夜間取り扱っている。結核の多かった頃は千葉勢も多く、河合教授も来られたそうで、第一外科、肺病研究施設から現在

私をいれて八名が千葉大出身である。医師の総数は72名。武蔵野の中心であり、総合病院の少ない地域であるので、都民の要望が多く、その点閉口するが、反面、大いに期待されているので働き甲斐もある。

私が着任し三年半たった。石の上にも三年というけれど、これといって大きな進展はないが、しかし、以前は静かすぎた病院が、現在は活気にみちた、明るい病院になった様な気がする。先日、病院運営協議会（地域住民が病院に具申する会）で、ある市の代表が、「この会へ出席し、毎年文句を言いつづけていたが、最近の府中病院は良くなった」とほめてくれた。実際には職員も少なく、患者さん

辛亥革命・留学生派遣記念碑



医学部正門近くの木立の中に、高さ2m、厚さ6cmほどの仙台石の記念碑が苔むしてひっそりと建っている。碑には漢文と漢詩が刻まれており、千葉医学専門学校中

先生（昭13卒）の依頼を受けて、防衛大学名誉教授、土屋申一先生（中国語）が碑文を翻訳された。原文は「千葉大学医学部百周年記念誌」冒頭のグラビア（五ページ）に収録されているので参照された。

辛亥（一九一一年）の秋、中華民国に革命が起こり武漢の南北軍の戦争は甚だ烈しくなってきた。従軍した留学生は戦禍の蔓延にともなつて負傷したり死亡する者が多くなつて来たので、同志を集め赤十字隊を組織した。留日の医学薬学の学生を連合して祖国に帰り救援に赴いた。

『肺癌の細胞診 臨床病理学的 アプローチ』

病棟は他科が利用している。しかしそれでも満床である。この病棟不足の解決と、地域の要請もあり、救命救急センター、精神科救急医療を六十五年開設する方針で、二百床増床する。この建設工事が六十二年十一月より始まった。そして、癌の早期発見のために、当院に接して多摩がん検診センターが出来た。これは六十六年開設予定である。また府中キャンパス（当院の敷地内）には神経病院、療育センターがある。これらとともに増床工事が完成すると、府中病院も七百五十床の病院となり、三多摩のメジカルセンターの役割を担うことが出来るような気がする。

今後の当院の発展を大いに期待してもらいたいものである。

(B・A)

恩師を偲ぶ (2)

皮膚科学
竹内 勝先生
(昭6卒)



千葉大学名誉教授竹内勝先生は去る昭和62年7月6日逝去されました。謹んで先生の御冥福をお祈り致します。

先生は昭和6年千葉医大を卒業された後、佐藤邦雄教授の主宰されていた皮膚泌尿器科教室に入局され、昭和14年には「ビタミンと感染の関係」についての論文により医学博士の称号を得られました。昭和16年には講師に、昭和22年には助教に、さらに昭和27年には教授に昇進されました。以後昭和45年まで皮膚科学講座の主任として、診療、教育、研究に從事され、講座の発展に誠心誠意尽力される一方、多くの皮膚科医を養成されて、世に送られました。

先生の御研究は「ビタミンと皮膚」および「梅毒」に関するものが主体を占めておりました。ビタミンB群およびCとの関連についての研究では、広範で、かつ深く追究された成果として、昭和39年に日本ビタミン学会賞を受賞され

ました。梅毒については、疫学、梅毒血清反応および治療に関する研究を進められました。その結果、昭和28年には日本皮膚科学会賞である賞見賞を受賞されています。また、先生は昭和28年から2年間千葉大学医学部附属病院院長となられたほか、日本皮膚科学会理事を務められました。

昭和45年御退官後に、J.R.西千葉駅前にて「西千葉皮膚科」を開業された先生は、沢山の患者さんの診療に当たられて御盛業であったことをご存知の方が多いことと思います。

学園一筋に真面目に生きてこられた竹内先生の思い出は尽きませんが、先生の業績の一端を紹介して追悼の言葉と致します。

千葉大学教授 岡本昭二(昭27卒) 内科

斎藤十六先生

(昭7東大卒)



昨年7月25日、斎藤十六先生は心筋梗塞、肺癌のため長らく入院されていた東京都東大病院において八十一歳で御永眠された。

先生は昭和7年東京帝国大学医学部を卒業、日本大学医学部内科教授を経て、昭和28年本学第二内科教授に御就任し、昭和44年退官時まで、教育、研究、診療それぞれの面にわたって多大な業績を残された。また、この間千葉大学医学部附属病院院長、同看護学校長、同助産婦学校長を併任し、大学の発展に御尽力された。さらに学外にあつては第26回日本循環器学会会長として学会を主催されたほか、多くの学会、研究会の会長を務められた。国外においても、国際内科学会を初めとする諸学会で大変御活躍された。この間、日本内科専門医制に非常な情熱をそそがれ、他学会にさきがけ、昭和43年10月に、発足させたことは、大変な功績として語られている。

先生の御研究の中心は循環器系と自律神経系であり、特に、心・血管系の血行力学、循環器系の神経調節、特に頸動脈洞反射に関しては世界的権威として、多くの著書を残されている。他に、呼吸器系、内分泌学、血液学等にも御造詣が深く、その博識は広く知られた所である。先生の講義は聞く人を魅惑して止まず、学生のみならず教員もこぞ出席したほど盛況であつた。

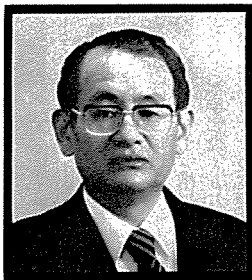
御退官後は北里大学医学部客員教授、城東病院顧問として後輩の指導育成に当たられた。最近健康を損ね、北里大学附属病院、千葉県癌センター、本学第三内科、城東病院に入院を繰り返しておられたが、常に枕頭に医書が積まれており、学究の立場を忘れない毎日であつた。お会いする度に、御面倒を見ていただいた関係者の方々に感謝の念で一杯であることのをべておられた。

先生には生前の御功績により従四位勲三等瑞宝章が贈られた。また、御葬儀は先生の御遺志により、御親族の方々のみにて済ませられたが、先生を偲ぶ会が昨年11月17日行われた(五面)。最後に先生の御逝去をお悼みし、心から御冥福をお祈り申し上げます。

千葉大学教授 稲垣義明(昭26卒) 整形外科

井上駿一先生

(昭32卒)



恩師井上駿一先生のあまりにも突然の御他界に愕然とするばかりです。思えば先生は私が昭和39年千葉大学整形外科教室に入局以来昭和60年9月1日名古屋市立大学医学部整形外科教室の主任教授として赴任する迄の20余年間、故鈴木次郎教授の御存命中は兄弟子として、昭和43年教授就任後は先輩あるいは恩師として本当にお世話になりました。先生は恩師鈴木先生の厳格な外科シニールを誠心忠実に継承され、かつ自ら率先して実践され我々弟子達に範を示されました。ことに鈴木先生の創始された千葉大学整形外科教室のお家

芸である腰椎椎間板ヘルニアや二り症に対する経腹膜の前方椎体固定術は、私も幾度となく「前立ち」としてASSISTANTをつとめさせていただきましたが、その手術手技は大変ASSISTANTに忠実で、鉤の引き方、鉗子の保持の仕方に至る迄、厳しく教えられ、今でも先生の叱咤激励が思い出されます。

先生は常に学問に真摯に取り組み、かく「ONE PATTERN」になり勝ちで「EASY GOING」な我々弟子達の行き方に批判的で、若い研究者としての身がまげや態度を自ら範を示されました。学会や講演会の準備に至るまで、どんなにご多忙でも必ず自分で症例を吟味し、写真図表に至る迄作製されるという常に真理の探求に時間をおします夜のふけるのも忘れ後進のために指導にあたられました。

先生は教授就任以来20年近くにたり鈴木先生の脊椎外科をハウプトテーマとする千葉大学整形外科教室造りに自らを投じられた、脊椎疾患の基礎医学として、生化学、生理学、病理学、BIOCHEMICALSと中広く学問的手法を駆使して、病態解明にとり組まれ、それらを基盤としての治療大系の確立に鋭意努力されました。先生は世界にも類を見ない脊椎外科の指導者の一人として確固たる地位を固められ、我が国における整形外科医の範として近い将来には整形外科学会の会頭もほぼ約されておりましたのに、誠に残念でなりません。

千葉大学整形外科教室も今や三百人に及ぶ大教室になっております。先生のまかれた永遠の真理の種

人事異動

昭和62年10月、昭和63年1月、厚生省 北川定謙(昭31卒) 保健医療局長(生活衛生局長)

医学部長 片山 喬(昭30卒) 富山医科薬科大学医学部

教授昇任 工藤典雄(昭41卒) 筑波大学基礎医学系生理学

助教昇任 富田善身(昭42東大大理卒) 微生物学第一

講師昇任 近藤春樹(昭47卒) 内科 科学第一

編集後記

☆杏林大学医学部第二外科教室の花岡建夫先生(昭33卒)には、昨年四月一日付で教授に就任されました。大変遅くなってしまいましたが、次号で先生のご紹介をしたいと思ひます。

☆今年、会員名簿の改訂が行われる予定です。住所変更のあった同級生をご存知の方は同窓会事務まで一報下さい。名簿は会員同士を結ぶ大切な絆です。

(徳永)